

■目的（事業：2022 東海 A 級トライアルと静岡県 B 級トライアルの現状や課題を整理し報告する）

■分析対象 東海 A 級トライアル参加者（6 名）及び静岡県 B 級トライアル参加者（30 名）

#### ■流れおよび全体像

東海 A 級トライアルに関しては、12 月 3 日（土）に科学技術高校にて 9 名にて実施した静岡県トライアルを通過した 6 名が参加した。3 月 5 日（日）に岐阜協立大学にて東海地区から 14 名が参加し、午前と午後に分けて指導実践を行った。指導実践のテーマは、①守備（2 ライン）②ビルドアップ③攻撃の崩し④フィニッシュの 4 つのテーマを準備し、当日抽選により決定したものを各自がプランニングしてきた TR2 と GAME（合計 20 分）を行った。選手役は、岐阜協立大学の選手が行った。

静岡県 B 級トライアルに関しては、2 月 18 日（土）に科学技術高校にて 30 名で行った。JFA コース 3 名と FA コース 24 名の枠を指導実践の内容を 47FA チュータ 9 名で選考した。

指導実践では、①ボールを奪う②ゴールを守る③ゴールを奪う④ゴールを目指す の 4 つのテーマから 1 つのテーマを抽選で決め、各自がプランニングしてきた TR2 と GAME（合計 15 分）を行った。選手役は、科学技術高校の選手が行った。

#### ■東海 A 級トライアル

JFA コーチの振り返りから、①プレーの確保、基準の提示とのバランスを保つこと。基準はあるがプレーの確保が少ない、プレーの確保はあるが基準がない指導実践が多くバランスが悪かった。②基準の提示はより明確なものとし、提示したことに対するジャッジ（評価）をすること。褒めることでもそれが基準となる。基準の提示はシンクロコーチングでもできる。③ミスが起こっていない時には止めない。これは、多くの方が自分のプランや KEY FACTOR を出したい時に起きていました。選手側からの納得感も少なく、ミスが起きた時に的確にコーチングしたいところです。④全体的にミーティングが多く、言葉で改善する傾向が多かったです。③と同様に問題が起きた時に伝え、これをやればうまくできる基準を示したい。⑤非改善側への提示や要求もしたい。例えば、テーマがビルドアップであれば攻撃側の改善に加え、守備側への働きかけで守備の強度が高まると ON, OFF の攻撃側の質の追求ができる場面も出てきます。

終日 14 名の方の指導実践から感じたのは、緊張もあり普段の力が発揮できない方もいたように見えました。静岡県のトライアル後の間の学習としてチュータの方に 2～3 回程度の指導実践を見てもらう機会を設けてから東海トライアルに参加する必要性を感じました。

オーガナイズは、シンプルな TR2 の中でプレーさせながら、シンクロとフリーズを活用しながら基準の提示をし、プレーの改善させていきたい。ON の部分と OFF の部分での改善があり、大学生がプレーするのにちょうどよい大きさ（幅と深み）をプランニングされた方はトライアルを通過されました。また、TR2 での落とし込み（基準の提示）が甘いとゲームでもフリーズする場面が増えてしまいます。ゲームの中ではシンクロを中心に（ジャッジ）していきたいところです。クラリティとリアリティのバランスの観点からも TR2、（4 対 4～7 対 7）GAME（6 対 6～8 対 8）位のオーガナイズで 2 つのゴールを付けるか、1 WAY の形でやられた方が 20 分の指導実践では指導者も選手もやりやすいのではと感じました。TR2⇒GAME と GAME⇒TR2 の視点で最後の GAME をどうしたいかをプランニング（人数の調整や 2 ライン、3 ラインの設定や選手の配置）をしたいです。テーマに応じて配球の工夫や「コミュニケーションをとろう」と言ったシンクロではなく、具体的な言語から思考させて行動を選手に落とし込めれば良いと感じるシーンがありました。KEY FACTOR として明示している守備の優先順位、正しいポジション、コミュニケーション、パスの質、サポートの質といった言葉を指導者自身が具体的に整理し伝えられるかが鍵となると考えます。

## ■トピックス

来年度の東海A級トライアルの指導実践のテーマに関しては、B級の6つのテーマに変更になります。静岡県のトライアルにおいてもB級の6つテーマでの実施となると思います。サッカー全体像の理解からテーマ理解に加え、(ON/OFFの選手、攻守、切り替え)のB級レベルをクリアされているかが評価のポイントとなる。オーガナイズの工夫、指導力としての(分析・改善・発展・個別指導・視覚化・動機付け)等を意識しながら指導実践を行う。コーチ自身がテーマの中でサッカーをさせて、何を獲得させたいかの基準を示すことが選手も生き生きとプレーでき、重要となると思われます。

東海A級トライアルでは、県の推薦順位は考慮せず、当日の指導実践の評価で8名の枠が決定します。本年度は6名が参加し、2名が通過しました。(愛知県4名、三重県1名、岐阜県1名)

## ■静岡県B級トライアル

テーマは2020からのC級指導実践のテーマである①ボールを奪う②ゴールを目指す③ゴールを守る④ゴールを奪うで行った。プランニングは最小6対6、最大8対8をお願いをし、TR2を10分間で指導実践した。テーマにフォーカスしながら、10分と限られた時間で選手にプレーさせ、分析し、ミスや問題が起きた時にコーチング(シンクロ・フリーズ)できると良いかと思います。

課題としては、プランニングとしてGAMEの前のTR2であることを考えて作成したいです。TR1の内容に近い方も多数いたので人数やゴールの設定など工夫が必要です。

## ■提言(トライアルに向けて)

□オーガナイズの工夫(幅と深み、背後のスペース、ゴールやサーバー、人数や配置)

□基準を提示する→ジャッジする・褒める・更に要求する

□質(クオリティー)への追求(デモンストレーション)言語化して具体的に示す

□ONへの働きかけ(個人)を改善し、基準をつくり全体で共有していく

□OFFへの働きかけ(3人目4人目、GKのポジショニング等)

□守備・攻撃への働きかけ(裏側)

※各地区の47FAチューターやA級取得者に各トライアルまでに指導実践を見てもらうこと。

これまでのインストラクターの名称がチューターとなり、受講生を参加者と呼ぶようになり、チューターが参加者と寄り添いながら、伴走者として関り、お互いが高め合う関係を目指します。

報告者：武田 直隆(静岡市立高校)